

受賞のことば（研究発表部門）

平林信隆（共栄大学）

この度は、2021 年度学会賞審査結果による異文化経営学会賞（発表部門）を頂き、大変嬉しく心より光栄に感じております。私の研究発表に対する本学会の馬越会長からの高い評価と、コメンテータとしてご指導いただいた長尾先生をはじめ、選考にたずさわった全ての方々にこの場をお借りして深く感謝を申し上げます。

今回受賞致しました「学習者の自我の状態を考慮した性格特性の抽出と ACL を用いた性格特性に適合した英語学習サービスの開発に関する研究」の背景には、異文化経営において、パーソナリティ特性の活用は国民文化尺度とは補完関係にあり、ステレオタイプなどに対する補正的な役割なども担うことがあげられます。近年は AI などを用い、執筆者のテキストデータを解析し、パーソナリティ特性を抽出し、ビジネスに活用するような技術的な環境が整備されつつあります。また、語彙の因子分析からなるビッグファイブなどのパーソナリティ特性は、先行研究においては生得的であり、経年などによる影響は受けにくいと言われております。

そのような状況の中で、本研究における私のリサーチ・クエスチョンは「ステート(状態)やコンテキスト(場)の変化の影響を受けずにパーソナリティ特性の情報は安定して収集できるのか？」ということと、「性格特性にあった語彙を活用することで、性格特性に合った商品設計、マーケティングコミュニケーション、組織コミュニケーションなど経営に貢献できないのか？」ということでありました。このことを解明するため、私は 400 名以上の学生への大規模な実験を行い、量的に仮説を検証してまいりました。そして、この実験から、得られた知見は、「学生が通常の状態から英語学習の状態に入ると、安定しているはずのビッグファイブの性格特性が変容しうる」ということと、「ビッグファイブの性格特性に合わせた語彙のリストを使用してデザインした英語学習プログラムは、学生の学習の動機付けにプラスの影響を与えた」ということでした。

本研究から、パーソナリティ特性を抽出する際は、パーソナリティ特性を活用する状態を相手に対して作ること、そしてその状態で収集されたパーソナリティ特性に適合した語彙を活用することは、国際人材教育、異文化コミュニケーション、国際リーダーシップマネジメントなどの領域に今後、広く適用できるものと期待しております。今回の受賞を励みに、この研究領域をより一層発展させて参りたいと思います。

最後に、改めまして学会の皆様には厚く御礼を申し上げますとともに、今後ともご指導ならびにご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(2020年度第1回研究大会 2020年11月28日にて発表)